

特集—沿岸被災地の復興支援を考える

人と人との絆は

未来の希望へと

つながってゆく

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震から1年半。
沿岸被災地の復興は緩やかであるものの着実に前に進んでいます。
その中で、これから被災地には何が必要なのか、
どのような支援が求められているのか——。
現在、市などが行っている被災地支援事業を紹介します。
今後の復興支援について、もう一度考えてみましょう。

市は、震災以前から大船渡市を中心に沿岸地域と交流を行っていました。人や物資の往來の歴史は古く、本市にはその往來により宿場町が栄え、地域経済が発展しました。このような古くからのつながりを、この機会にもう一度見つめ直してみよう。お互いに手を取り合いながら、震災復興、そして今後のお互いの発展に向けた活動を考えていくときなのです。

東北地方太平洋沖地震から1年半の月日が流れました。皆さんの力を結集し、震災復興に向けてさまざまな支援を行ってきました。その積み重ねにより被災地はきれいな形に近づいています。

しかし、沿岸被災地が自立し、もとの姿を取り戻す本当の意味での復興はこれからです。忌わしい震災の経験を風化させることなく、一人一人ができる範囲の行動で、被災地の復興に向けて支援しましょう。

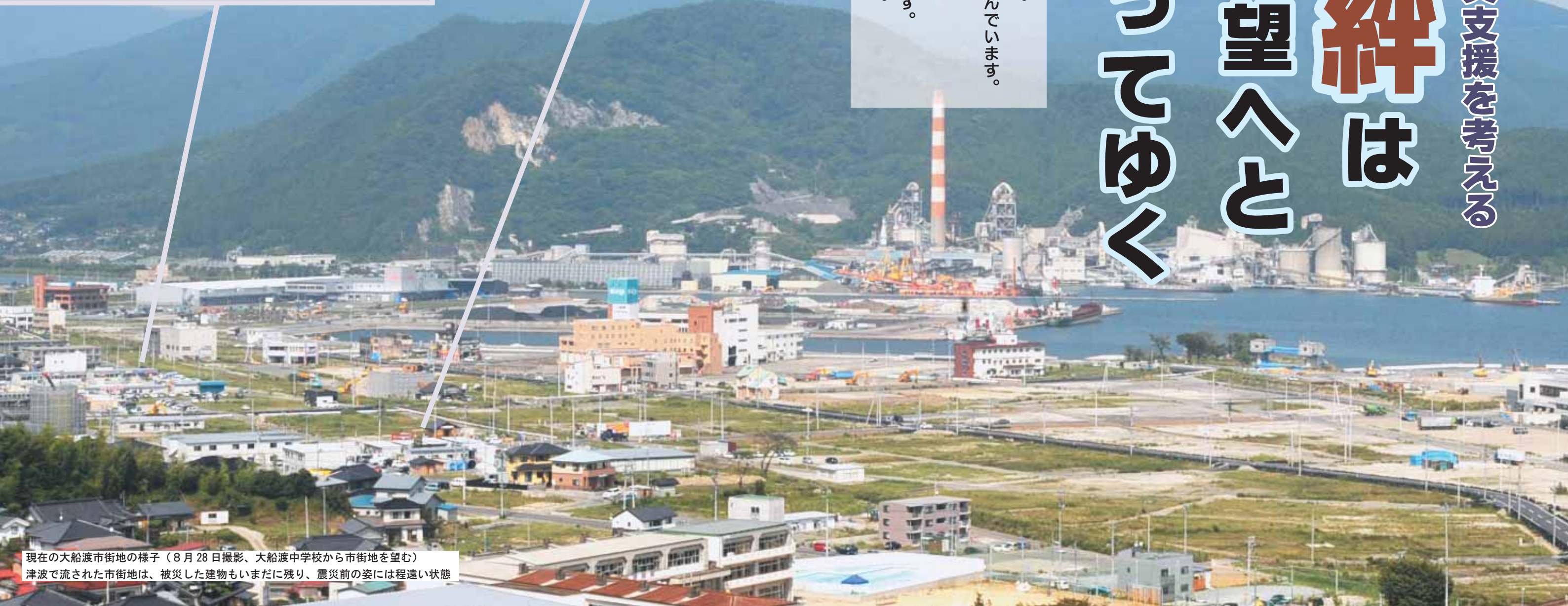
皆さんが「絆」で結ばれることを願って——。



元気の街「大船渡・屋台村」



大船渡夏まつりで大にぎわいの「おおふなと夢商店街」



現在の大船渡市街地の様子（8月28日撮影、大船渡中学校から市街地を望む）
津波で流された市街地は、被災した建物もいまだに残り、震災前の姿には程遠い状態